



令和2年度 ふれ愛ホームひだまり

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	妻鹿興商株式会社	代表者	妻鹿 修身	法人・事業所の 特徴	ふれ愛ホームひだまりは、播州地方を代表する秋祭り「灘のけんか祭り」で有名な松原八幡神社の鳥居前に、グループホームに併設して建てられている。建物は平屋建て和風建築で、天窓や吹き抜けから暖かい陽光が降り注いでいる。利用者の自立支援・利用者本位を柱に、認知症であっても地域住民として対等・平等な生活を享受するノーマライゼーションの実現と共に地域福祉に貢献するという目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。
事業所名	ふれ愛ホームひだまり	管理者	妻鹿 修身		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	0人	5人	1人	0人	2人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・引き続き、職員間の情報共有に努め、全職員で自己評価に取り組んでいく。	全職員で自己評価に取り組み、情報共有を図った。	無回答もある為、自己評価のことを理解してもらうことも大切である。	研修など、自己評価の内容を理解するための取り組みを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	・引き続きボランティア活動の活発を行い、地域の方が参加してもらえるように発信していく。	コロナ禍の感染防止の観点から、ボランティア活動の呼びかけを自粛している。	今後もコロナ禍の生活環境が続くと思われるので、対策が必要と思われる。	コロナ禍における生活環境について検討していく。
C. 事業所と地域のかかわり	・現在の取り組みを進めながら、事業所が行っている事を発信していく。	コロナ禍の感染防止の観点から、対面での地域交流を自粛している。	運営推進会議の参加メンバーと意見交換し、連携を図ることが重要。泊りではなく、訪問や通いの方の地域の関わりも必要。	現在の取り組みを進めながら、動画など多様な方法で、事業所が行っている事を発信していく。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	・利用者が地域に向いて暮らし続けられるよう、職員間の情報共有を図っていく。	地域と連携して、施設内で認知症サロンを行うことを検討した。	コロナの今の状況から考えたらイベント参加は難しいと思われる。コロナの状況を見て、サロンを開催できることを期待したい。	コロナの状況を考慮しながら、地域と協働して認知症サロンの開催を目指していく。

令和2年度 心れ愛ホームひだまり

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・運営推進会議の議題を検討していく。</p>	<p>コロナ禍の感染防止の観点から、運営推進会議の回数を減らし、開催してきた。</p>	<p>運営推進会議の参加メンバーで意見や情報交換をして連携できる関係を作る。 運営推進会議の中で、事業の説明だけでなく、地域の状況を説明してはどうか？</p>	<p>運営推進会議において、地域の具体的な事例をうかがう機会を設ける。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・運営推進会議の中で避難訓練の実施を検討していく。</p>	<p>事業所の災害避難確保計画を作成している。</p>	<p>ハザードマップなどを活用して事業所の災害に対するリスク分析を行う。 計画を周知していくことが重要である。</p>	<p>運営推進会議を通じて、事業所の災害計画を周知していく。</p>